



No.54

The University of Tokyo Forest News

# 科学の森ニュース

June 10, 2011

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

## 森林吸収 $CO_2$ の認証を国内大学として初めて取得

千葉演習林

2011年4月12日(火) 千葉演習林が国内大学として初めて森林における  $CO_2$  吸収量の認証を取得しました。認証された  $CO_2$  は約 500 トンで、千葉演習林で 2007 - 2009 年度に間伐された約 25 ヘクタールのスギ・ヒノキ人工林が吸収したものです。認証は環境省が主導する J-VER (日本版排出削減認証) 制度を通じて行われました。国内で森林吸収  $CO_2$  を認証する制度は複数ありますが、J-VER 制度は国が主導する唯一の制度として、最も信頼性の高いものです。

この事業は、2008 年度より全学的に取り組んでいる、東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト (TSCP) の一環として行われ、取得した  $CO_2$  は、TSCP が最優先課題としている低炭素キャンパスの実現に活用される予定です。



審査員の指示に従い調査プロットの樹木を測定する様子

## 滝川寛之さん農学部長賞受賞

### 広報情報委員会

2011年3月24日(木) 農学部長室において平成22年度東京大学農学部「学部長賞」の授与式が行われました。学部長賞は、学業成績が極めて優秀な学生に授与されるもので、平成22年度は演習林所属の滝川寛之さんが受賞しました。滝川さんは受賞の知らせに驚いたそうですが、これを励みにして精力的に学業に取り組んでいきたいと語っていました。演習林所属学生の皆さんの活躍に今後とも期待したいところです。



運動会体操部でも活躍する滝川さん。卒業論文では北海道演習林で調査を行いました。

## 地方演習林の名称が変わりました

### 広報情報委員会

東京大学演習林では今年度より新しい活動計画「教育研究計画2011-2020」に基づいて活動を行っていきます。予算、人員の削減が続く中、附属施設としてのサービスの質を向上させるためにはどうしたらいいのか。演習林の運営体制について検討した結果、地方演習林等の組織の名称も一部を変更しその役割を明確化することになりました。今回2011年6月1日(水)より名称が変更になったのは以下の組織です。心機一転、新たなスタートを切る演習林にご期待ください。

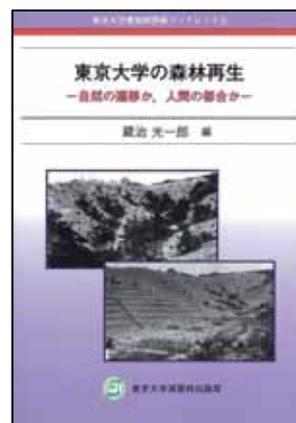
「愛知演習林」	「生態水文学研究所」に改称
「富士演習林」	「富士癒しの森研究所」に改称
「田無試験地」	「田無演習林」に改称
「研究部」	「教育研究センター」と「企画部」に改称

## 本の紹介

### 愛知演習林ブックレット 「東京大学の森林再生 - 自然の遷移か、人間の都合か -」

税込み1,000円 A5判 126ページ

東京大学には、森林再生の研究・教育とその実践に日本国内・国外で精力的に取り組んでいる教職員・学生がたくさん所属しています。本書はその中から、大学院農学生命科学研究科の附属施設である演習林で、大正時代から続けられてきた森林再生の取り組みと、結果として再生された林の「未来のあるべき姿」をめぐる議論について紹介するものです。



## マツの森をまもる

税込み1,200円 四六判 148ページ

昭和3年(1928年)に東京大学愛知演習林(現生態水文学研究所)に移管された新居町の海岸の土地。以来80年以上にわたり、多くの職員の手によってマツの海岸砂防林が作られていきました。現在「新居試験地」と呼ばれるそのマツ林は、どのように作られ、どのように守られてきたのでしょうか。日本人にとっての「マツの森」、地元の人々にとっての「マツの森」、東京大学にとっての「マツの森」を考えます。



東京大学演習林は東京大学における森林に関わる教育研究のためのフィールドとして1894年に設立されました。以来117年目を迎える今日までさまざまな紆余曲折を経ながらも日本で最も歴史のある森林教育実践の場として管理運営されています。そして長い東大演習林の歴史の中で初めての試みが今年2011年にスタートしました。それが「教育研究計画2011-2020」です。



「教育研究計画2011-2020」は東京大学演習林が行うさまざまな活動について今後10年間の計画を定めたもので、森林管理、組織運営、試験研究、教育活動など東京大学演習林が行うすべての活動の根拠となるものであると同時に、東京大学の附属施設として教育研究の場をいかに充実させまた多くの教育研究の成果をいかに発信していくかを示す計画です。これまででも地方演習林ごとに「試験研究計画」と呼ばれる10年計画を作成して活動していましたが、計画時期やその内容については各々異なっており東大演習林全体で統一した計画を作るのは初めてのことなのです。

東京大学演習林は「教育研究計画2011-2020」を基本に今後も最高の森林フィールドとしてサービスを提供していきます。教育に研究に、ぜひご利用ください。

### 演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧ください。各演習林にお問い合わせください。

<b>2月</b>	3日 森林博物資料館公開(千葉)	5日 公開セミナー「森林環境の保全と持続的な木材生産 ～新緑の演習林を散策しながら～」(北海道)
	5日 教職員向け特別ガイド「冬の散歩みち」(富士)	5日 「子ども樹木博士」認定会(田無)
	11~13日 体験ゼミ「マツ・オン・ザ・ビーチ-現代的白砂青松論」(愛知)	9日 サポーター養成講座「秩父演習林の植物」(秩父)
	13日 公開講座「マツ枯れ跡地に一緒にマツを植えませんか」(愛知)	10日 公開講座「ロープウインチ公開講習会」(富士)
	19日 公開講座「大学って何してるの?・キャンパスの外の研究」(秩父)	11~12日 演習林交歓会(秩父)
	19~22日 体験ゼミ「伊豆に学ぶ1」(樹芸)	14~17日 平成23年度北海道東北地区大学演習林等技術職員研修(北海道)
	22~25日 体験ゼミ「森の木づかい」(千葉)	18~19日 総合科目「森林-人間系の科学」(秩父)
	24~27日 体験ゼミ「伊豆に学ぶ2」(樹芸)	23日 サポーター養成講座「森林における安全管理」(秩父)
	26~28日 体験ゼミ「ダムと土砂」(愛知)	25日 体験ゼミ「危険生物の知識」(千葉)
<b>3月</b>	2~4日 体験ゼミ「雪の森林に学ぶ-北海道演習林」(北海道)	<b>7月</b>
	5日 教職員向け特別ガイド「香りを楽しもう」(樹芸)	3日 公開講座「子ども樹木博士」(樹芸)
	10~13日 体験ゼミ「企画系さらに伊豆に学ぶ」(樹芸)	16日 サポーター養成講座「秩父演習林の動物」(秩父)
<b>4月</b>	2日 鴨川市交流事業「野鳥の巣箱をかけよう」(巣箱観察会)(千葉)	24日 森林教室(田無)
	9日 ~春の森づくり県民大作戦~海岸にクロマツを植えよう!(愛知)	27~29日 サマー・サイエンスキャンプ2011「森林の未来は? ～森を知り、持続的な取り扱いを考える～」(北海道)
	12日 植樹祭(里親制度・東京大学の森育成資金の寄付者ご招待)(愛知)	30日~8月4日 総合科目「伊豆に学ぶプラス」(樹芸)
<b>5月</b>	8日 公開講座「新緑の森を歩こう」(樹芸)	31日~8月3日 体験ゼミ「夏版伊豆に学ぶ1」(樹芸)
	13日 利用者研究集会(愛知)	<b>8月</b>
	13~14日 春の自由見学(秩父)	2~4日 高校生のための森と海のゼミナール(千葉)
	14日 教職員向け特別ガイド「新緑の樹木園と森林鉄道跡を訪ねる」(秩父)	4~8日 体験ゼミ「森に学ぶ(ふらの)」(北海道)
	14日 体験ゼミ「都市の緑のインタープリター養成」(田無)	6~7日 公開講座「東大の森林で昆虫採集」(秩父)
	14日 サポーター養成講座「秩父演習林の管理・運営」(秩父)	18日 サポーター養成講座「森林生態系の管理と利用」(秩父)
	21日 体験ゼミ「都市の緑のインタープリター養成」(田無)	28日~9月1日 総合科目「伊豆に学ぶプラス」(樹芸)
	21~22日 総合科目「新ストープの社会経済学」(秩父)	29日~9月1日 体験ゼミ「夏版伊豆に学ぶ2」(樹芸)
<b>6月</b>	1日 温室特別公開日(樹芸)	<b>9月</b>
	3~5日 体験ゼミ「景観としての森林生態系と人間の感覚」(北海道)	2~5日 体験ゼミ「企画系さらに伊豆に学ぶ」(樹芸)
	4~5日 体験ゼミ「危険生物の知識」(秩父)	6~9日 体験ゼミ「野生生物の保護管理」(千葉)
	4~5日 総合科目「ダムと森林」(生態水文)	17日 サポーター養成講座「秩父演習林の林業生産と育林技術」(秩父)
		26~30日 総合科目「伊豆に学ぶプラス」(樹芸)
		27~30日 体験ゼミ「森に学ぶ」(樹芸)

凡例・・・無印:一般向け :学生向け :その他

## セミヤドリガ

セミヤドリガ科 セミヤドリガ属

学名: *Epipomponia nawai*

セミヤドリガは幼虫期をセミ類に寄生して過ごす風変わりなガの仲間です。本州・四国・九州・韓国・台湾の森林に生息しています。千葉演習林では照葉樹林の周辺で稀に幼虫がセミに寄生しているのを見かけます。ヒグラシに寄生することが多いようですが、写真はアブラゼミに寄生している珍しい個体の例です。幼虫はセミの体液を吸って成長し、終齢幼虫になると白い綿毛で体が覆われて非常に目立つようになります。成虫は開翅長 20mm 程度の小さなガで、これまでにほとんど雌しか確認されておらず、単為生殖を行っているのではないかと考えられています。

千葉演習林



千葉演習林で確認したアブラゼミに寄生している終齢幼虫。

## 名所名物案内

中世を偲べる横山道

田無演習林

昭和4年に開設された田無演習林では中世からの遺構、横山道を見ることが出来ます。横山道は田無演習林のほぼ南端を東西に横切る道で、複数あった鎌倉街道の連絡道として機能していたと考えられています。江戸時代の絵図には「往古横山海道」と記されています。田無演習林を含む一帯は「谷戸山」と呼ばれる広大な平地林でした。暗がりを怖がって夕方になれば誰一人としてこの道を通らなかったようですが、「谷戸山」を横切る唯一の道だったので重宝されてもいたようです。さて田無演習林旧官舎は現在の演習林内のどの巡回路にも面して居らず



駐輪場より見る横山道（右手が旧官舎）

不便なのですが何故でしょうか。正門すぐの駐輪場から田無タワーを背に東を眺めると柵の向こうに道が見えます(写真)。実は旧官舎が面している、現在は使われていないこの道こそが横山道なのです。旧官舎はかつて横山道沿いの一等地に立地していたといえます。開設直後の図面は「幅九尺道」(約 2.7m)、旧官舎完成(昭和5年)後の図面は「二間道路」(約 3.6m)とあり、現在の幅とほぼ同じです。中世に成立した後、道筋や道幅は数百年間ほぼ同じままかも知れません。

参考文献: 東大演習林出版局「武蔵野に大学の森をたずねて～東京大学田無試験地の80年～」および田無市史

## 科学の森ニュース (The University of Tokyo Forest News)

第54号 (No.54)

発行日 平成23年6月10日

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

発行人 白石則彦

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

編集人 後藤 晋

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2010@uf.a.u-tokyo.ac.jp